

# 東彼杵 グラフ

1 / 2 3 郷 菅無田郷

東彼杵町の魅力やおもしろいこと  
ステキな人たちの出会いを  
外からの視点で感じたまま写真におさめ  
その模様を綴っていく“東彼杵グラフ”。  
この町での暮らしを選び、地域おこし協力隊として  
活動する3人が歩き始めた。



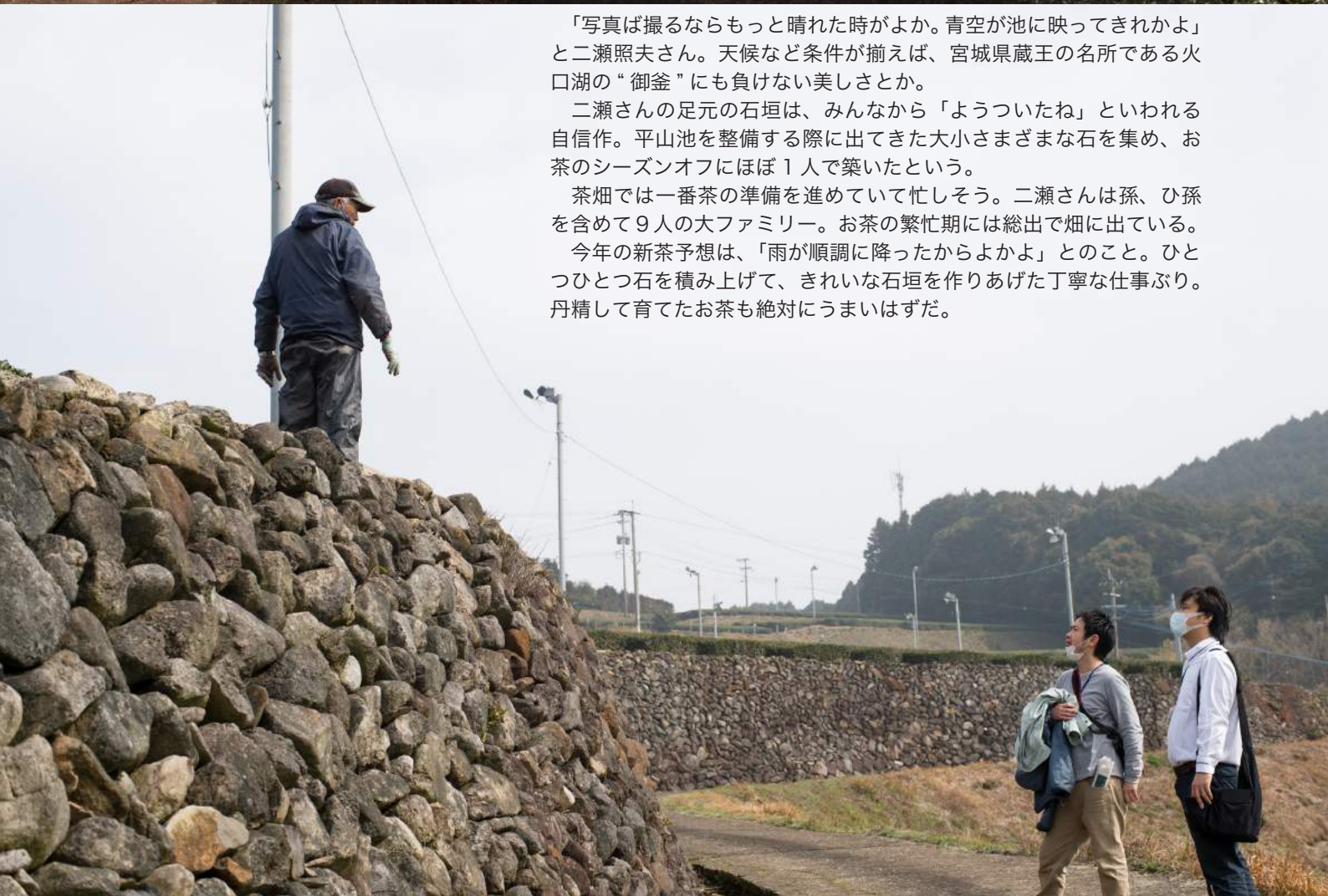


今回訪ねたのは菅無田郷。谷底平野に民家が点在し、国道34号に平行するように流れる彼杵川沿いには田園風景が広がる。その昔、シーボルトが長崎街道で一番のクスノギと紹介した大楠の跡が有名なところだ。

郷のほぼ中心にある農村公園に車を止め、ここを基点に歩く。まずは平山池を目指すことにした。朝露をまとうスギの香りに清々しい気分になりながら、くねくね道をひたすら登る。

15分ほどで池の外縁が見えてきた。平山池は地元で平山堤と呼ばれ、その歴史は古く、縄文時代には前身となる小さな池があったという。そこはシカやイノシシなどが水を飲むために集まり、住民にとって狩りや生活の場所だった。今でも貴重な存在であることは変わらず、農業用水として約83haという広い水田をうるおす堤となっている。

池の全容が見たくなり、高台へ登っていく。すると、茶畑の方から声をかけられた。



「写真ば撮るならもっと晴れた時がよか。青空が池に映ってきれいかよ」と二瀬照夫さん。天候など条件が揃えば、宮城県蔵王の名所である火口湖の“御釜”にも負けない美しさとか。

二瀬さんの足元の石垣は、みんなから「ようついたね」といわれる自信作。平山池を整備する際に出てきた大小さまざまな石を集め、お茶のシーズンオフにほぼ1人で築いたという。

茶畑では一番茶の準備を進めていて忙しそう。二瀬さんは孫、ひ孫を含めて9人の大ファミリー。お茶の繁忙期には総出で畑に出ている。

今年の新茶予想は、「雨が順調に降ったからよかよ」とのこと。ひとつひとつ石を積み上げて、きれいな石垣を作りあげた丁寧な仕事ぶり。丹精して育てたお茶も絶対にうまいはずだ。



いったん公園近くまで戻り、今度は彼杵川の支流の宇都川に沿って歩く。このあたりは、恵比寿丸と大黒丸という地名が残っている。〇〇丸といっても海に関連していたわけではなく、もともと名田があった場所に多い地名という。菅無田郷の生き字引、昭和ひとケタ生まれの石坂文一さんが教えてくれた。

また、恵比寿丸と大黒丸の間には“深入り”と名付けられたところがあり、これは天文2（1533）年、大村勢を見くびった周防の大内勢が深入りして陣取ったことから。大内勢3000人に対し、300人の大村勢は彼杵の8集落の長が集まった八人乙名（はちにおとな）が地侍と団結し、地の利を生かして大勝利をおさめたという、歴史の舞台がここにあったそうだ。

さらに歩く。九州新幹線のトンネル工事現場をくぐり抜け、上流部まで辿り着くとここにも茶畑。さすがはお茶どころである。

山間にひととき異彩を放つ茶畑を見つけた。心地よい落ち葉のクッションを踏みながら近づく。放射冷却の影響か、茶畑からうっすらと湯気が出ているようにも見えて、なんとも幻想的。みっしりと苔むした石垣や階段も風情がある。どこかの古刹を訪れたかと錯覚するほど、あたりには荘厳な空気が漂っていた。

昼ごはんは、ドライブイン山景へ。店内は昔ながらの食堂という雰囲気、色々の電灯がかわいい。硬貨を弾くゲームが懐かしい。

ラーメン、皿うどん、かつ丼…、時間差で、できた順に運ばれてきた。ひとつひとつ愛情を込めて作ってくれているようで、かえってうれしい。いずれも見た感じはこってりめ。だが、食べるといい塩梅。そして、アツアツ。うまかった。





国道沿いを歩いていると、茶畑で話しをした二瀬ファミリーと再会。“西原さま”という地元で大切にされている神様を教えてください。

「妊婦さんが安産祈願に訪れる。うちもみんなお参りしとるよ」と孫の元城（げんぎ）くんを抱いた秀幸さんをパチリ。菅無田郷の信号あたりで、山側へ目をやると確かに祠があった。毎月8日にお供えや清掃をして、“西原さま”を地域で管理している芳井松枝さんに話を聞くことができた。

「私が小さい頃からお産や子授け、子どもの神様として親しまれていました。町外からも多くの方がお参りに来られます。毎年4月8日は婦人会がお菓子などを振舞って、みんなでお祝いをしています」

“西原さま”は、子どもの願いを広く叶えてくれるそう。「双子の孫が揃って長崎大に合格しました」とうれしそうに話してくれた。

車では何度となく行き来しているが、“西原さま”には全く気がつかなかった。地域をじっくり歩き、そこに生きる人たちとふれあうことで、インターネットやガイドブックなどでは入手できないたくさんの魅力に出会えた。

※菅無田郷へは、町営バス「二の瀬橋」「大楠小学校下」「蔭平橋」、JR九州バス「大楠」「菅無田郷」のいずれかのバス停を利用。



次回は太ノ浦郷。お楽しみに！

制作 地域おこし協力隊  
文 飯塚将次  
写真 堀越一孝  
編集・デザイン 小玉大介